

高温熱刺激療法によって 「免疫細胞の増加」と「自己免疫性疾患に対する有効性」が 科学的に示されました。

平成 27 年、半年をかけて「温熱器を用いた高温熱刺激に対する生体内変化の検討」と題して、新宿区河田町にある若松河田クリニックと共同研究を行いました。

その結果、定期的な三井温熱療法の施療は、「自己免疫性疾患」などに対して有効である可能性が科学的に示されました。

研究結果は、次のグラフで表わすことができたので、それを解りやすく解説します。

研究内容・方法

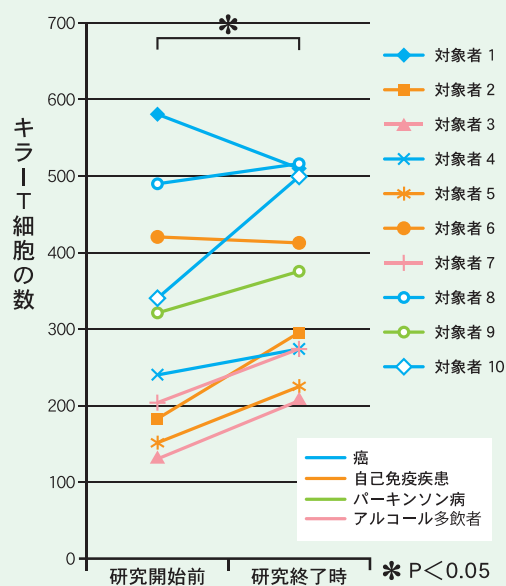
治療点である、いわゆる「熱いポイント」を温熱で刺激して、自律神経を直接活性化させます。
(これは、当協会が育成する温熱療法師が行う最も基本的なやり方です)

施療対象 若松河田クリニックの患者さん 10 名

回数・時間 ● 1 週間に 1 度 計 20 回
● 1 回につき 60 分
・背中 7 割 (約 40 分) ・お腹 3 割 (約 20 分)

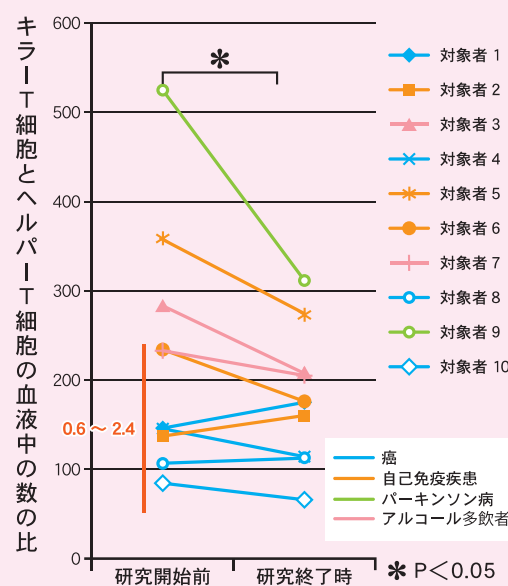
グラフ 1

高温熱刺激療法による「キラーT細胞」の変化



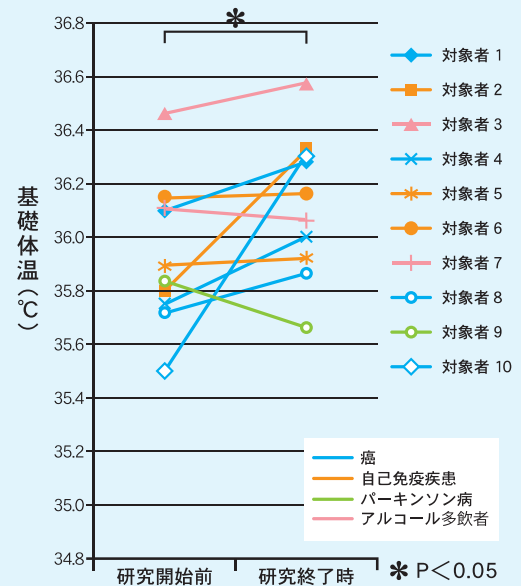
グラフ 2

結果 高温熱刺激療法によるキラーT細胞とヘルパーT細胞比の変化



グラフ 3

高温熱刺激療法による基礎体温の変化



グラフ 1 は、ガンやウィルスを攻撃する「キラーT細胞」の数を表しています。10人中9人に細胞数の増加がみられます。これはガンやウィルスに対する免疫力が向上したと捉えることができるでしょう。



グラフ 2 は先程の「キラーT細胞」と「ヘルパーT細胞」の血液中の数の比を表しています。免疫力というのは、細胞の数が多ければいいのかもしれないとそうではなく、「キラーT細胞」と「ヘルパーT細胞」のバランスが大切です。グラフ 2 にはオレンジの縦線があり、そこに 0.6 ~ 2.4 という数値が見えます。これが理想的な免疫のバランス値です。2.4 を超えた数値は「自己免疫疾患」や「アレルギー疾患」などの危険性があります。ご覧のように全員の数値が理想値に近づいていることがわかります。

グラフ 3 は体温の変化です。これもほとんどの方で体温の上昇がみられました。基礎体温を継続的に上げるのは大変難しく、1週間に1度の温熱療法を受けることでそれを成し得たのです。

